

診療所長 今月の二句

平成二十六年一月

寒鰯の 肌鈍色の 海にぶいろの如

お正月の食材で、九州では、鰯が定番です。九州出身の小生の自宅では、この時期、いつも鰯が台所に現れます。鰯を見て、獲れたであろう、冬の日本海を思い浮かべました。

かざはな
風花の 舞いて上着の 襟を立て

乾いた風が、一月の寒さを、いっそう厳しいものに感じてさせます。さらに、風花まで舞ってききました。仕事とはいえ、診療終了後、夜の外出は、いやなものです。